

## I : 宗教現象としてのキリスト教

### <前回> キリスト教の現在・アジア

- ・キリスト教の多様性 → キリスト教は西洋の宗教か? 100年前と現在
- ・アジア・キリスト教: 多様性と共通性 (近代化の文脈)
  - 教派的多元性と宗教的多元性の状況下でのキリスト教
  - アジアにおけるキリスト教の新しい構築
- ・中国キリスト教: 儒教の壁・洋教、文化大革命と改革開放路線、三自愛国教会と地下教会
  - 儒教的キリスト教・文化キリスト教

## 第1講: キリスト教学の課題と方法

### 1 キリスト教学とは何か

1. キリスト教学はキリスト教を対象とした学術的研究の総体である。
  - キリスト教学は、キリスト教を対象とした広義の宗教学である。
2. 広義の宗教学における現代宗教学の位置付け
  - 神学: 宗教にも様々あるが本当の宗教あるいはあるべき宗教とは何か、真の宗教
    - 「規範概念」
  - 宗教哲学: 多様な宗教現象に同じ宗教という言葉が適応できる根拠は何か
    - 宗教を宗教としているその本質は何か、そもそも宗教とは何か
    - 「本質概念」
    - cf. 個々の美しいもの/美そのもの
  - 現代宗教学 (宗教の経験科学): 宗教はどのようなものとして存在してきたのか
    - 「経験概念」
    - 1880年代以降: マックス・ミュラーの『宗教学入門』(晃洋書房)
    - 比較宗教学や宗教史学といった呼称もしばしば用いられる。
3. 宗教は科学ではない。しかし、宗教学 (キリスト教学における現代宗教学的研究) は科学的であり得るし、また可能な限りそうあることを目指している。
  - 宗教は単なる理屈ではない。しかし、宗教学は理屈である。
  - 学問としてのキリスト教学は、「ありがたいお話」ではない。
4. しかし、科学とは何か。あるいは科学はいつ科学となったのか。
  - ・啓蒙主義的な科学理念 (実証主義的科学理念) と科学の自立:
    - 自然科学 (物理学) をモデルとした近代的な意味での科学の成立は、19世紀 (1830年代) 以降。
  - ・レトリックとしての科学 (「科学的である」という表現の説得性)
    - この点は、現代の宗教現象にも反映している。科学性を強調する新宗教。

- ・ 経験諸科学の成立：歴史学、文学批評、経済学、法学、心理学、現代宗教学
  - 実証主義的な科学理念とそのモデルとしての自然科学(物理学)
    - そして、大学の変貌

5. イーグルトン『文学とは何か』(岩波書店)

「文学に関するもろもろの定義が現在のようなかたちをとりはじめたのは、実のところ、「ロマン主義の時代」以降のことだ。「文学」という言葉の中に現代的な意味が発生したのは十九世紀なのだとってもよい」(30頁)

Letter から Literature へ

6. 古代科学、中世科学あるいは東洋科学(?)は、科学か?

Q: 古代科学や中世科学などを包括する「科学」概念は構築可能か?

科学の本質概念は実体的に規定できるか?

現代思想における本質主義批判を念頭に考えよ。

## 2 現代宗教学と宗教現象のモデル化

1. 現代宗教学の前提(現代宗教学の科学性とは?) = ファースト・ステップ

(1) 現象から原理・構造へ: 経験から出発する

(2) 価値中立性: 偏見を捨てる・結論を急がない

(3) 全体論(Holism): できるだけトータルな視点に立つ → 本講義の立場

2. しかし、よく考えれば、事態は決して単純ではない = セカンド・ステップ

→ 「宗教学の哲学」としての宗教哲学(宗教学基礎論)の必要性

(1) 宗教研究において、完全な中立性・客観性は成り立つか

・ コミットメントの必要性

・ 結論の暫定性(近代的知の特性)

・ 客観性から相互主観性へ。

(2) 還元主義批判、還元主義的宗教学(マルクスやフロイトの宗教論)

は、分析・批判においては鋭いが、人間理解が狭い(公正さに欠ける)。

3. 宗教研究の手続き

「仮説と検証」: 仮説 → データ収集 → 記述・整理 → 分析・理論化

→ 検証・仮説の修正

4. 本講義の仮説

(1) 宗教現象のモデル化(仮説1・図1)

・ 多様な現象へのアプローチするための仮説的モデル

・ 宗教現象を分析する4つの軸(視点) → 4次元モデル

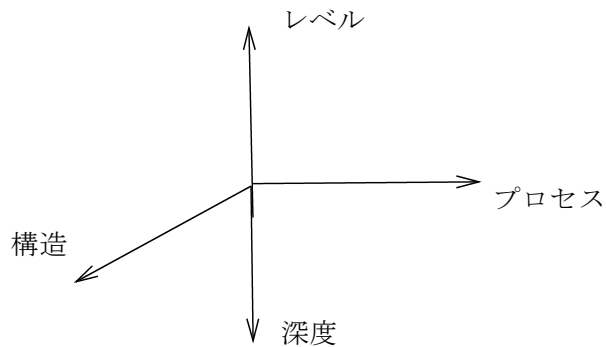
構造/プロセス/レベル/深度

・ 構造モデル(SMOモデル・図2)

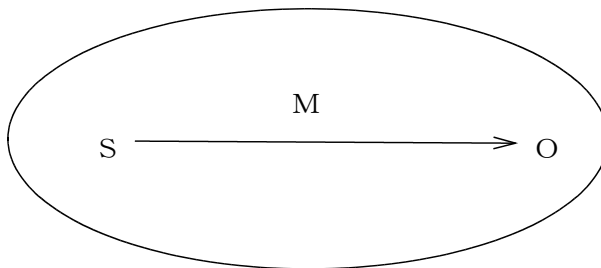
(2) 宗教概念(仮説2) → 次回講義へ

・ データ収集の範囲の確定、どこまでが宗教でどこからが非宗教か。

<図1> 宗教現象の4つの分析軸・切り口（4次元モデル）



<図2> 宗教現象の基本構造（SMOモデル）



⇓ 抽象化・「主観－客観」図式  
S、M、O

<参考文献>

1. 芦名定道 『宗教学のエッセンス——宗教・呪術・科学』北樹出版
2. 芦名定道編 『科学時代を生きる宗教——過去と現在、そして未来へ』北樹出版
3. 芦名定道編 『比較宗教学への招待——東アジアの視点から』晃洋書房
4. 武藤一雄・平石善司編 『キリスト教学を学ぶ人のために』世界思想社
5. 石田慶和・藺田坦編 『宗教学を学ぶ人のために』世界思想社
6. ギュンター・ランツコフスキー 『宗教学入門』東海大学出版会
7. 土屋 博 『教典になった宗教』北海道大学図書刊行会
8. 島藺進他編 『宗教学文献事典』弘文堂（近刊予定）
9. ジョン・ヒック 『宗教の哲学』勁草書房
10. 小林道夫 『科学哲学』産業図書